

令和8年度～12年度

第5期中区地域福祉保健計画 中なかいいネ！ 【素案】

中なかいいネ！は、

「誰もが住み慣れた地域でいつまでも安心して健やかに暮らしていけるまち」
をめざす計画です

この素案について、**皆さんのご意見を募集**します！
率直なご意見やアイデアを聞かせてください。
「こんな工夫があるといい！」「ここは分かりづらいかも…」
なんて気づきも大歓迎です！



横浜市地域福祉保健計画
キャラクター
「ちふくちゃん」

中なかいいネ！推進会議

《計画の3つのポイント！》



1. 取組の「3つの視点」の打ち出し
2. 地域活動を福祉保健分野に限らず、幅広く計画の対象に
3. こども・子育ての視点と多様性への配慮

－目次－

第1章 中区地域福祉保健計画 中なかいいネ！とは	
1 「中なかいいネ！」って何？	1
2 中区全体で取り組もう！	2
第2章 計画の背景	
1 中区の特徴	3
2 第4期計画(令和3～7年度)の振り返り	4
3 第5期計画の策定に向けたグループインタビュー	5
第3章 区計画	
1 第5期計画の方向性	8
2 3つの取組の視点を踏まえた「えん」と「元気」.....	9
3 地域活動で生まれる変化の流れ.....	13
第4章 地区別計画 ～地域のめざす姿～	
1 地区別計画とは	14
第5章 計画の推進	
1 計画の推進方法	16
2 中なかいいネ！のあゆみ	17

※実際の計画には、写真やイラストを追加します。

1 「中なかいいネ！」って何？

「中なかいいネ！」は、中区地域福祉保健計画の愛称です。地域の人々がお互いに支え合いながら、誰もが住み慣れた地域でいつまでも安心して健やかに暮らしていけるまちを目指して、中区に住む人・働く人・学ぶ人・すべての人が協力しながら進めていきます。

第5期「中なかいいネ！」では、地域活動を福祉保健分野に限らず、幅広く計画の対象とします。

市計画・区計画・地区別計画の関係

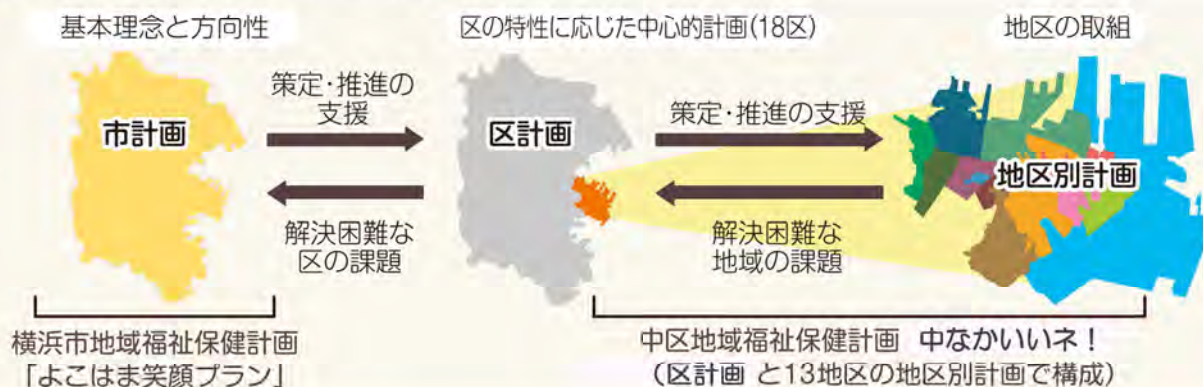
横浜市の地域福祉保健計画は、市計画、区計画、地区別計画の3層で構成されています。

市計画 市全体の基本理念と方向性を示し、区計画の策定・推進を支援する計画です。

区計画 区の特性を踏まえて、区域の共通課題に対する方向性をまとめた計画です。

地区別計画 地域がめざすまちの姿や地域の課題に対する様々な取組について、地域が主体となってまとめた計画です。

市計画・区計画・地区別計画の関係（イメージ図）



中なかいいネ！の計画期間

第5期計画の期間は、令和8年度～12年度の5年間です。

第1期
平成18～22年度

第2期
平成23～27年度

第3期
平成28～令和2年度

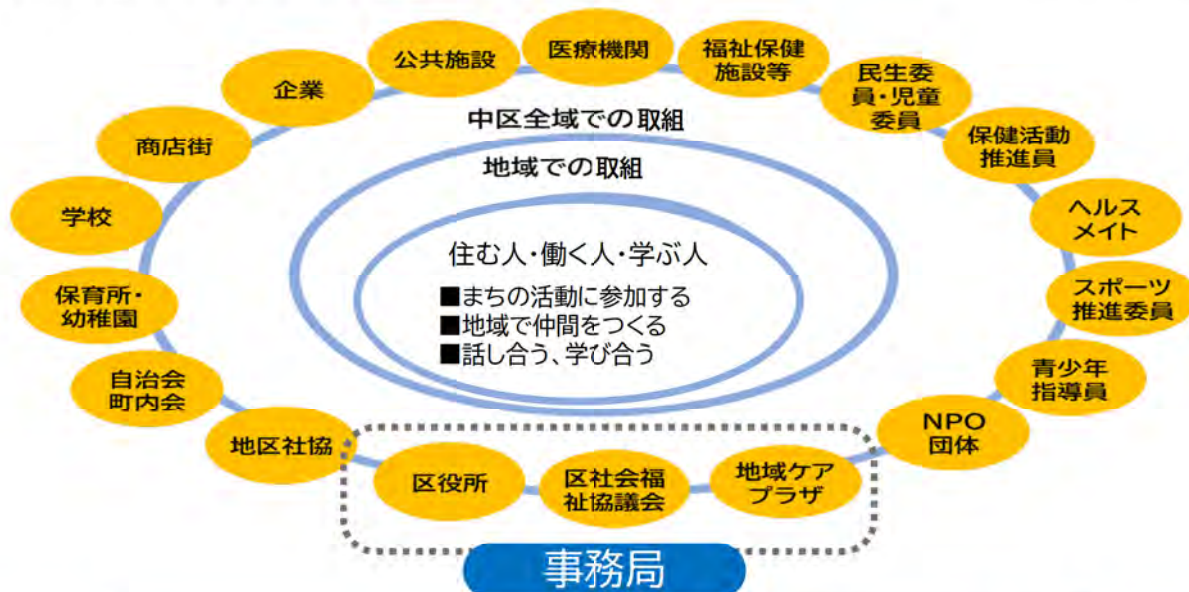
第4期
令和3～7年度

第5期
令和8～12年度

2 中区全体で取り組もう！

中区に住む人・働く人・学ぶ人・すべての人で取り組む

中なかいいネ！では、地域住民、活動団体、学校、福祉・保健施設、企業などが、それぞれの立場で地域の活動に参加し、仲間をつくり、できることを話し合い・学び合いながら、住み慣れた地域で安心して健やかに暮らせるまちづくりを進めていきます。



中区役所

区役所一体で
「誰もが愛着を持てる中区」に！

各課の専門性を生かし、関係機関と連携して、区計画を総合的に推進します。

また、各地区別計画が円滑に進むよう、区役所全体で地域の取組をサポートし、必要な支援が届く仕組みづくりを行います。



中区マスコットキャラクター・スウィングー

中区社会福祉協議会

誰もが安心して
自分らしく暮らせる地域社会を
みんなで作りだす

中区内13地区の地区社会福祉協議会活動の支援や、ボランティアセンターをはじめとした各種事業を展開することなどを通じて、中区の皆さまと共に住み慣れた場所での「ふだんのくらしの しあわせ」の実現を目指します。



ほら、
よこはまは
あったかい

横浜市社会福祉協議会
シンボルマーク

社会福祉協議会
シンボルマーク
(全国共通)



地域ケアプラザ

地域に寄り添い、笑顔をつなぐ、
中区地域ケアプラザ

地域に積極的に出向き、住民や団体と協力して、活動の継続支援や居場所づくりの発掘などを進めます。

また、積極的な情報発信を通じてコミュニティの活性化に取り組み、「活力ある中区」の実現を目指します。



1 中区の特徴

歴史と文化が息づく中区。都市機能が集まる中心区であり、人口の動きが活発です。外国人住民や一人暮らし高齢者、障害のある方など、多様な背景を持つ人々が暮らしており、健康づくりへの関心も高まっています。

人口・世帯



1世帯あたりの人数は1.7人
18区で最も少人数

多文化共生



8.3人に1人が
外国人住民

こども



1年間に生まれる
こどもは約700人
18区で最も少人数

高齢者



総世帯のうち
一人暮らし高齢者世帯は
18.3%

障害



障害者手帳の所有者は
約20人に1人

働く人・学ぶ人



昼間の人口は
夜間の約1.7倍

健康



運動への意識の高さは
市内トップ！

生活環境



住まいはマンション・アパート
などが7割超

地域活動



約4割の人が「気軽に参加
できる活動」に関心あり

2

第4期計画(令和3～7年度)の振り返り

第4期計画では、『もっとみんなの「中なかいいネ！」～相互理解を進めよう～』を5年後の目標に掲げ、世代や立場を超え、住民、企業・事業所で働く人、障害者・外国人などの当事者が、お互いに理解し合うことを目指しました。その振り返りを踏まえ、第5期計画の展開について、地域や推進会議(★)で話し合いました。

★推進会議(中なかいいネ！推進会議)とは？

区計画を策定・推進するため、13地区と関係機関・団体の代表者、学識経験者で構成される会議です。会議では、地域の活動状況の共有や、今後の取組についての意見交換・検討を行っています。

活動の柱1 見守り力を高める「えん結び」

活動の柱2 健康づくりの「元気いっぱい」

推進会議でのご意見

コロナ禍を経験して、家に閉じこもりがちな一人暮らし高齢者の心身の健康状態がより気になるようになりました。今も地域で見守りを続けています。

第4期はコロナ禍で苦労も多かったのですが、屋外での活動を取り入れたり、食事会をお弁当に切り替えるなどの工夫で、継続・再開できた活動もたくさんありました。これらの工夫や成果を土台にすることで、今後さらに前進できるのではないのでしょうか。

食事会は食べることだけが目的ではないと思います。参加者にとってはその場に来ることが「元気づくり」につながっています。また、地域にとっては「見守り」につながっています。

地域活動そのものが、関わる人にとっても参加者にとっても地域にとっても、「元気いっぱい」につながっていると思います。

中なかいいネ！の「住み慣れた地域で安心して健やかに暮らし続ける」という大きな目標を実現するには、計画の枠組は地域の方にとって分かりやすいことが大事だと思います。第4期計画の地域活動の「2本の柱」は第5期でも変えずに、地域に根気強く広めていきたいです。

地域の中で新しい担い手を見つけ、育てていくためにも、外国人や転入者などが地域とつながりやすい仕組みを考えていきたいです。

区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザの振り返り

- 関係者が活動の「目的」をしっかりと共有し意識して取り組むことで、事業の連携が広がり、担い手のやりがいにもつながるのではないかと。「目的」に共感する「サポーター的な存在」を増やしていけるとよい。
- 高齢者の見守りや健康づくりは進んでいるが、こども・障害者・外国人などに向けた取組も広がっていく必要がある。こちらから出向くアプローチも大切。
- 「えん結び」への理解は進んできた一方で、「元気いっぱい」はやや弱い傾向がある。体を動かすことだけでなく、「活動の場に参加すること」そのものが、心の健康や社会とのつながりの面で、「元気いっぱい」を育む。そのことを、もっと地域に広めていく必要がある。
- 住民や事業者が日々の生活や地域活動の中で気づいた困りごとを地域課題として受けとめ、支援者や関係機関につなぐ仕組みが必要である。支援する側と地域の皆さんが、困りごとについて一緒に考え、共有する場をつくるのが大切。
- 区内のネットワークの強化や重層化を意識しながら取り組んでいくことが重要ではないか。



日ごろの皆さんの取組や活動で感じていることを、もっと広く地域で共有していけるといいですね。

「中なかいいネ！」の内容をわかりやすく伝えていくことが「地域のつながりづくり」のきっかけになると思います。



《ちふくコラム》当事者の声を聴く仕組みづくり

■こどもの声を聴く

○子育て「ワイワイトーク」

中区には、区役所全体でこどもや子育て家庭を支えていくための取組として「なかくっこすくすくサポート」があります。こどもや子育て家庭を地域全体で見守り、安心して子育てができるまちを目指しています。

その一つとして、子育て中の人々が自由に話せる場「ワイワイトーク」を開催し、そこで上がった当事者の声を子育て支援や地域づくりに反映するよう取り組んでいます。



▲ワイワイトークの様子

○中なかいいネ！じぶんのまちのことアンケート

住んでいるまちを身近に感じ愛着を育む人づくりを目指して、区内イベントなどで、小学生を対象としたアンケートを実施しています。「自分のまちのすきなところ」、「どんなまちになってほしいか」といった思いを自由に書いてもらっています。

今後は学校とも連携し、こどもたちが自分の住むまちをより身近に感じられるような取組を進めていきます。

■障害者の声を聴く

障害者支援を進めていくときには、障害がある方が安心して地域で生活できるよう、当事者の声を「具体的に聴く」ことが大切です。

中区障害者地域活動ホームみはらしポンテなどと連携し、当事者の声を支援の仕組みに反映できるよう、取組を進めていきます。

3

第5期計画の策定に向けた グループインタビュー（令和6年10月）

第5期計画の策定に向け、地域活動に関わる区民の皆さん、福祉・医療・教育など分野の異なる専門職・団体、事業所の皆さんなど約30名の方に集まっていただき、「地域の支援ネットワークづくり」をテーマに意見交換を行いました。

皆さんのご意見

（居場所ボランティア）

中区には多様な人や文化が存在します。地域でのポジティブな対話や学びによって、暮らしづらさが解消されることも多いと思います。

（地域食堂ボランティア）

外国人が主体になれる取組がまだ十分ではありません。
外国人も支えられる存在ではなく、主体的に地域と交流できるようになることが大切だと思います。

（介護事業所ケアマネジャー）

高齢者支援の現場では、高齢者本人だけでなく、同居家族が課題を抱えるケースに出会うことが多くあります。
家族全体を支援する方法を学ぶことが必要だと感じています。

（民生委員）

「中なかいいネ！」の推進に、こどもたちが参加する機会があるといいですね。こどもたちにも分かるように地区別計画を説明したいです。

（民生委員）

中区には、歴史や文化を背景に、地域活動を通じて仲間づくりがしやすい風土があると思います。
そういう“イイところ”は継承しなくちゃ！

（連合会長）

こどもも障害者も、自分の言葉で思いを発信できるようにすることが大切です。
そこから当事者同士や様々な関係者同士がお互いを知り、支援の輪を生み出すことができるはず！

（自立訓練事業所 職員）

障害のある人こそ、こどものときから好きなコト得意なコトで自分らしい暮らしができるように、地域とつながっていくことが大事だと思います。

（地区社会福祉協議会）

防災・減災のためにも、地域のつながりづくりの大切さを日頃から働きかけていきたいです。

（主任児童委員）

情報を得られる人とそうでない人との間に格差があると思います。支援者だけでなく、こども本人や保護者、地域の住民が一緒になって、地域を育てていく姿勢が大切だと思います。

（スクールソーシャルワーカー）

不登校のこどもを抱えて将来に不安を感じている保護者や、どうすればよいかわからず不安を抱えているこどもたちが増えています。まずは声を聞くこと！信頼関係づくりが大切です。

（地区社会福祉協議会）

地区の事業は、「中なかいいネ！」の理念やめざす姿につながることが多いです。地域活動と計画へのコミット感を持つことで、みんなが元気になれるといいですね。

（公立学校教員）

こどもの頃から、身の回りでつながりや対話の場を持つことが大切です。自ら地域とつながる経験ができるよう、学びの場づくりを工夫していきたいです。

（区役所 障害者支援担当職員）

せっかく地域支援チームがあるので、その立場や役割をもっと生かして地域と関わってきたいです。



グループインタビューを通じて、「中なかいいネ！」の「えん結び」と「元気いっぱい」の考え方は、多くの方に親しまれ、共感を得ていることが分かりました。

また、地域における「多様なつながり」とともに、中区の特性を踏まえた「共生社会の実現」や「歴史・文化と地域への愛着」も、計画に欠かせない視点だということをみんなで確認しました。



1 第5期計画の方向性

第4期計画の振り返りを踏まえ、第5期計画の方向性を整理しました。

これまで掲げてきた地域活動の2本の柱「えん結び」「元気いっぱい」は、第5期でも継続します。両者は互いに連動しています。その理解を広めながら「3つの取組の視点」を意識して、中区全体で地域活動の充実に取り組んでいきます。

～地域活動がめざすもの～



地域の見守り力を高める

「えん結び」

お互いに関心を持ち、
暮らしの困りごとの解決に取り組みます

- あいさつや声かけから、気軽に話し合える関係を広げよう
- こどもの健やかな育ちを地域で応援しよう
- 暮らしの困りごとは人それぞれ。立場や背景、価値観の違いを知り、地域の中で誰もが支え合える関係になろう



健康づくりの 「元気いっぱい」

みんなでこころとからだの
健康づくりに取り組みます

- 体を動かし人と交流することで、心身の健康を維持しよう
- 身近な場所で、誰もが自由に参加できる活動にしよう
- 一人ひとりの得意分野を生かし「できること」を探してみよう



地域活動の「2本の柱」を育むための

3つの取組の視点

誰もが支え合う
共生社会

多様なつながりで
安心の輪を広げる

愛着心を育み
住み続けたいと思える
地域づくり・人づくり

人財 仲間を増やす

交流 することで気づく

情報 による動機づけ

区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ

2 3つの取組の視点を踏まえた「えん」と「元気」

「えん結び」と「元気いっぱい」という地域活動の2本の柱を軸に、「3つの取組の視点」を踏まえた活動の例を示します。住む人・働く人・学ぶ人・すべての人が連携・協力して、区全体でこのような活動を増やしていけるよう、区計画を推進していきます。

各地区でも活動の意義をみんなで共有するとともに、ここに示す活動の例を、新たな方向性を考える際のヒントにしてください。



視点1 誰もが支え合う共生社会

1. こどもの声を聴き、健やかな育ちをみんなで応援！こどもの居場所や活躍の場をつくろう

活動例

- ・こどもが安心して過ごせるための「大人のゆるやかな見守り」の仕組みづくり
- ・こども向けの多彩なテーマの活動（昔遊び・文化活動・食や農など）の展開
- ・多世代交流を通じた気づき合いと理解の場づくり
- ・学校に行きづらい・学習の苦勞などの経験を共有できる場づくり
- ・こども同士が「助ける・助けられる」関係づくり

2. 障害について理解を深め、交流する機会をふやそう

活動例

- ・地域の行事での交流（お祭り・運動会・防災訓練など）の促進
- ・障害の有無によらない「インクルーシブ」なイベントや講座の開催
- ・障害への理解や共感を深める場の拡大

3. 国籍やルーツによらず誰もが助け合い、交流できる地域にしよう

活動例

- ・地域の行事での交流（お祭り・運動会・防災訓練など）の促進
- ・言語の壁が小さく、誰もが楽しめるテーマの活動（食・音楽・手作業・スポーツなど）の拡大
- ・困りごとに応じた相談の場（子育て・教育や医療・健康、防災など）の充実
- ・地域の暮らし（ごみ分別や騒音など）に対する共通理解の促進
- ・言語や文化の違いを超えたゆるやかな見守り合いの促進

4. 立場や背景、価値観など 一人ひとりの多様性を尊重しよう

活動例

- ・住民の多様な背景や価値観への共通理解の促進
- ・多様な人々が地域で交流・対話できる場の拡大

「えん結び」

「元気いっぱい」

視点2 多様なつながりで安心の輪を広げる

1. 身近なつながりから、お互いに見守り見守られ、困りごとに気づき、支え合う地域にしよう

活動例

- ・ 日常の様子から異変に気づける「ゆるやかな見守り」の促進
- ・ 地域の仲間と楽しく健康づくりができる場（体操・食生活など）の提供
- ・ 住民同士が助け合うボランティアの仕組みづくり

2. 地域住民×事業者×専門職で暮らしを支えるサービスや制度を必要な人に届けよう

活動例

- ・ まちぐるみ（家族や親族・民生委員・商店や事業所など）の見守りと地域ケアプラザなどの関係機関との連携
- ・ 地域の薬局を核とした住民の見守りや健康づくり

3. デジタル×アナログで地域活動の情報発信力を高めよう

活動例

- ・ デジタルとアナログの融合による効果的な情報発信の展開
- ・ SNSなど若い世代が情報にアクセスしやすい環境づくり
- ・ 写真や動画などを活用した、世代や言語を超えた情報発信の仕組みの構築

4. 日頃のつながりづくりを通して災害時にも助け合う地域をつくろう

活動例

- ・ 防災訓練の内容の工夫（親子で楽しめるプログラムなど）
- ・ 災害時の健康（歯・口腔・栄養）への備えと学びの場の提供
- ・ 防災マップづくりや災害時要援護者名簿の活用

「えん結び」

「元気いっぱい」



《ちふくコラム》 セーフティネット会議とは？

地域の中で、生活に困っている人をみんなで支えるための話し合いの場です。福祉、保健、仕事、教育、住まいなど、様々な分野の専門機関や民生委員、NPOなどが集まり、困っている人に必要な支援が「ちょうどいいタイミング」で届くように協力しています。

生活支援課では、こうした関係機関とのつながりを広げながら、地域全体で支え合える仕組みづくりに取り組んでいます。

視点3 愛着心を育み住み続けたいと思える地域づくり・人づくり

1. 長い歴史があり、文化・経済活動も活発な中区の良さを大切に 地域活動の価値をみんなで分かち合おう

活動例

- ・地域の魅力あるスポットの共有・発信の場の拡大
- ・地域の歴史や文化に触れる行事や講座の展開
- ・“文化・経済活動”と“つながり・健康づくり”の高め合い

2. 「仲間」と「場」こそ心身の健康の源！地域活動を通じて元気づくりを進めよう

活動例

- ・気軽に集える場やコミュニティ（趣味や体操・ゲームなど）の充実
- ・健康づくり・フレイル予防を学ぶ機会（栄養・運動・社会参加・メンタルヘルスなど）の拡大

3. こどもたちが地域を身近に感じられるように活動を進めよう

活動例

- ・地域活動への親子参加やこども同士の交流を促す仕組みづくり
- ・学校やこども・子育て関係団体と連携した地域活動の推進

4. 13の地区で、みんなが地域に愛着を感じながら活動を展開できるよう、対話と学びで「中なかいいネ！」を進めよう

活動例

- ・中なかいいネ！の認知度アップ
- ・地区別推進会議に関わる人・団体の拡大
- ・地域活動の情報を多様な媒体で発信・共有する仕組みづくり
- ・持続可能な活動のあり方の検討と新しいスタイルの導入
- ・国籍や世代によらず参加しやすくするための工夫

「えん結び」

「元気いっぱい」



《ちふくコラム》中区で「働く人」との連携

「ピースフルファミリー事業」では、夏休みに、スポーツ体験を通じて親子のふれあいを深める特別イベントを実施しました。中区を拠点に活動するプロバスケットボールチーム「横浜エクセレンス」の選手も参加して、ストレッチやシュートゲームを通じて、こどもたちや子育て中のパパ・ママに笑顔と元気を届けてくれました。

中区ではプロスポーツチームをはじめ、中区で「働く人」も含め、中区で活動するすべての人がそれぞれの立場から、地域みんなで安心して健やかに暮らせるまちづくりを進めています。



©YOKOHAMA EXCELLENCE

「3つの取組の視点」を意識すると、
地域活動の価値を再発見したり、内容をより良いものに工夫したり、
新たな担い手を巻き込めたりする可能性が高まると思います！

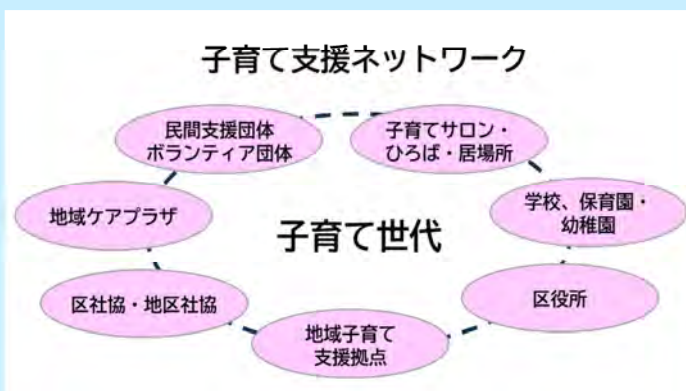


《ちふくコラム》中なかいいネ！を推進する取組の一部を紹介します！



子育て支援ネットワーク連絡会

地域の子育て家庭を支えるため、関係団体が連携し、情報共有や意見交換を行うネットワークがあります。区域ネットワークである「全体会」、7エリア（令和7年度時点）で実施されている「地区別連絡会」、各連絡会の代表者で集まる「準備会」で構成されています。こどもの健やかな発育・成長、妊娠期から18歳までの子育て家庭を地域全体で支える地域づくり、多文化・多世代の地域での共生社会の実現を目指しています。



地域につながる障害のある人の暮らし

「地域訓練会」を知っていますか？地域訓練会は、地域の中で暮らしている障害のある人やその家族が仲間と知り合い、つながる場です。

中区には「チューリップ」という地域訓練会があります。障害のある親子が集まり、音楽療法やプールなどをみんなで楽しみながら、ちょっとした子育ての悩みをつぶやく場となっています。ほかにも、防災訓練などを通じて地域で顔見知りを増やすなど、障害のある人が集まる場は、様々な場があります。人と人、人と地域がつながっていくことでお互いが分かり合い、誰もが暮らしやすい地域へとつながっていきます。



外国につながる若者の居場所 レインボー Rainbowスペース

Rainbowスペースは平成30年に、なか国際交流ラウンジで運営を始めました。国をまたいで生活した経験により葛藤・悩みをもつ若者たちが、将来の可能性を広げられるよう取り組んでいます。

具体的には、研修や体験活動の実施による人材育成、中高生への学習支援、映画制作などの表現活動を行っています。また、地域イベントでの通訳やチラシ翻訳などを通じて、地域の人々と共に生きるための交流・活動を支援しながら、地域ボランティアに参加しています。



3 地域活動で生まれる変化の流れ

地域活動に参加すると、「話せて嬉しかった!」「ちょっと元気になれた」と気持ちが動くことがあります。そんな気持ちや人とのつながりが少しずつ広がっていくことで、まちは「安心して暮らせる場所」へと育っていきます。



地域活動の例 ①

季節の行事
(夏祭り・運動会・クリスマス会・もちつき)



ひとの変化

住民同士が知り合いになり、日常のつながりが増える

身近な地域で交流や健康づくりができる

こどもから高齢者まで世代を超えたつながりを持てる

多様な立場や背景、価値観を知る

まちの変化

住民の支え合いが充実する

困りごとを抱えた人も安心して健やかに暮らせる

多様な主体の連携・協働による、地域課題の解決に向けた活動が充実する

住民・関係機関・団体が連携して、課題を抱えた人に継続的に寄り添い、関わっている

住民同士が多様性を認識し、尊重しあえる

住民のつながりを通じて心身の健康が増進される

孤立している人が地域でつながれる

地域活動の例 ②

子ども・子育て家庭向け
(サロン・ひろば・学習支援)



ひとの変化

住民同士が知り合いになり、日常のつながりが増える

多様な立場や背景、価値観を知る

身近な地域で困りごとを抱えた人に気づく

住民が専門職や関係機関とつながる

《ちふくコラム》 こどもの成長と地域とのつながりも大事な変化だね。



乳幼児期に親子で地域の子育て支援の場に行ったり、イベントに参加したりすることで、地域とのつながりが生まれるよ。こどもが成長すると、地域との直接的な関わりは減るけど、「ゆるやかな見守り」によりつながりは続いていくよ。

そして、こどもが大人になり子育てを始めると、再び地域とのつながりが生まれるよ。そんなつながりは、世代を超えて地域で受け継がれていくよ。

1 地区別計画とは

地区別計画は、めざすまちの姿や地域の様々な課題に対する取組をまとめたもので、地域が主体となって策定・推進する計画です。

中区では、区内の12連合町内会エリアに寿地区を加えた13地区で策定しています。

13地区

- ①第1北部地区 ②第1地区中部 ③関内地区 ④埋地地区 ⑤寿地区
- ⑥石川打越地区 ⑦第2地区 ⑧第3地区 ⑨第4地区南部
- ⑩第4地区北部 ⑪本牧・根岸地区 ⑫第6地区 ⑬新本牧地区



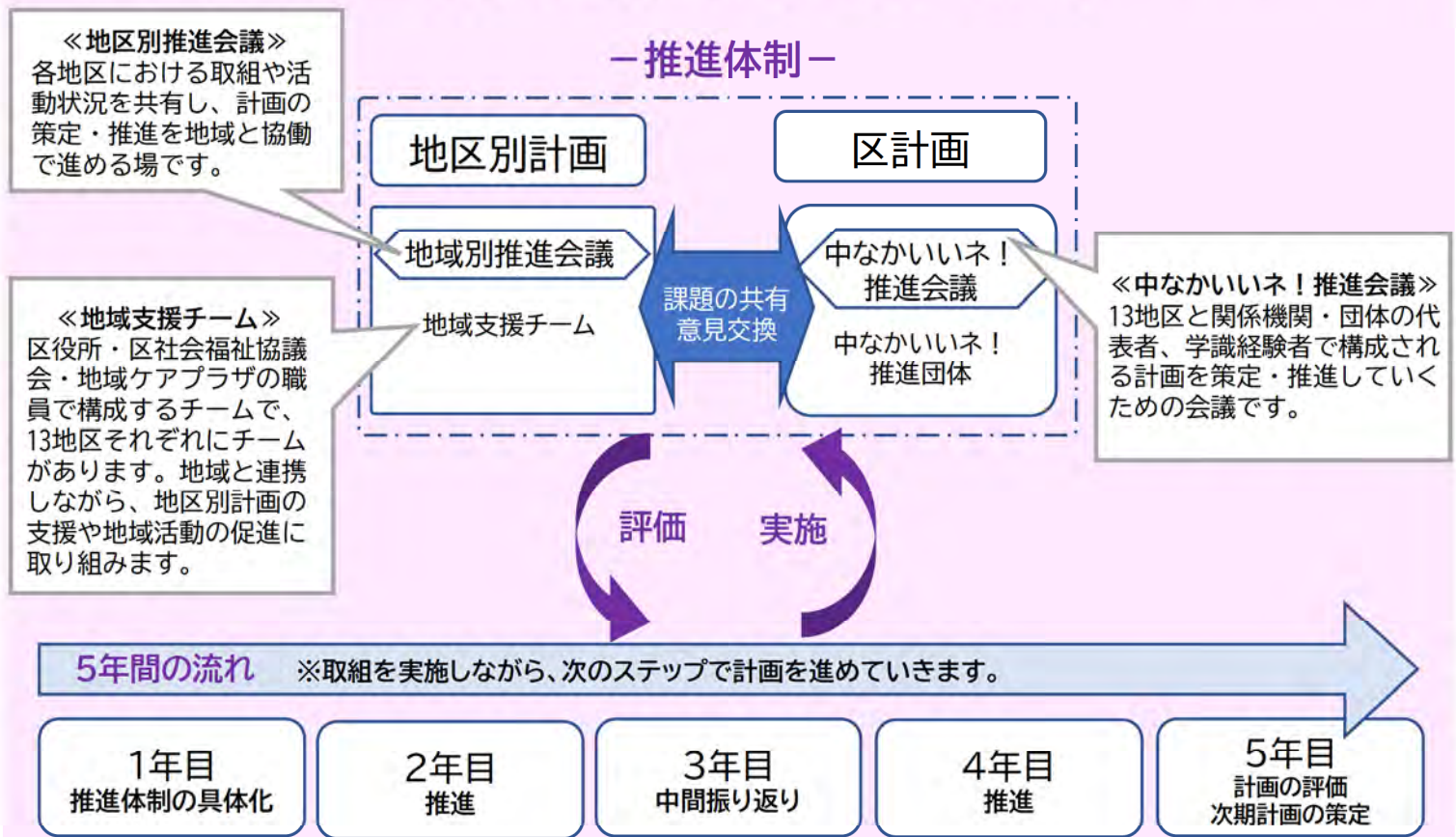
①第1北部地区	人と人が支えあい、世代も国籍も超えてつながる、安全で安心して楽しく暮らせる愛着のもてるまち 赤門町・黄金町・桜木町・野毛町・初音町・花咲町・英町・日ノ出町・宮川町
②第1地区中部	誰もが多文化共生する、安全で健康なまち「いちなか」 曙町・伊勢佐木町・末広町・末吉町・羽衣町・福富町・蓬莱町・弥生町・吉田町・若葉町・長者町の一部
③関内地区	「こんにちは」「コンニチハ」笑顔が繋がるまち・関内 相生町・太田町・尾上町・海岸通・北仲通・新港1丁目・新港2丁目・住吉町・常盤町・日本大通・弁天通・本町・真砂町・港町・南仲通・元浜町・横浜公園
④埋地地区	笑顔はじける！つながりキラキラ埋地のまち ～誰もが主役で、ワクワクが止まらないまち～ 翁町・千歳町・万代町・富士見町・不老町・山田町・山吹町・吉浜町・扇町・寿町・長者町・松影町・三吉町の一部
⑤寿地区	寿に住んでいる、寿で育ったと、堂々と言えるまち ～寿はたがいに受け止め合い支え合う～ 扇町・寿町・長者町・松影町・三吉町の一部
⑥石川打越地区	住んでいる皆さんの支え合いや、助け合いが活き、幸せだなと感じられるまち 石川町・打越
⑦第2地区	国際色豊かで、多様な文化と笑顔が交差する 高齢者も子育て世代も住みやすいきれいなまち 新山下一丁目・新山下二丁目・新山下三丁目・元町・山下町
⑧第3地区	みんなが地域福祉にかかわり、つながりを持って助け合えるまち 上野町・柏葉・鷺山・竹之丸・立野・仲尾台・西之谷町・本牧緑ヶ丘・豆口台・妙香寺台・麦田町・大和町・滝之上・山手町の一部
⑨第4地区南部	声がかけあえるまち第4地区南部 本郷町・本牧町・本牧満坂・本牧荒井の一部
⑩第4地区北部	こどもたちの「ふるさと」になるまち ～安心して住みやすい 誇れるまち～ 北方町・小港町・諏訪町・千代崎町・本牧十二天・山手町の一部
⑪本牧・根岸地区	誰もが地域の一員として、安心して過ごせるまち本牧・根岸 根岸町・根岸加曽台・池袋・矢口台・本牧間門・本牧荒井の一部・本牧三之谷・本牧大里町・本牧元町・本牧原の一部・錦町・かもめ町・千鳥町・豊浦町・本牧ふ頭・南本牧
⑫第6地区	自然と歴史の調和・心あたたまる絆・「このまちが大好き」をつないでいく 大芝台・大平町・塚越・寺久保・西竹之丸・根岸旭台・根岸台・簗沢・山元町・滝之上・山手町の一部
⑬新本牧地区	新本牧は「あいさつ」でまちづくり～広げよう！つなげよう！「人の和」～ 本牧宮原・本牧和田・和田山・本牧原の一部

※地区別計画については第5期計画に向け、各地区で作成中のため、素案には収録していません。策定の際にはこのページの後ろに、13地区の地区別計画を掲載する予定です。また、上記スローガンなどの内容が変更となる場合があります。

1 計画の推進体制

中なかいいネ！の進め方

区計画の推進にあたっては、地域・区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザなどがそれぞれの役割を確認しながら、協働して取り組みます。13地区の地区別計画については、「地域支援チーム」がサポートしながら、地域に暮らす人や活動している人が主体となって推進します。



中なかいいネ！の振り返り方法

「地区別計画」

各地区の実情に合わせて、年度ごとに意見交換や振り返りの場を持ちます。

「区計画」

地域活動の2本の柱「えん結び」「元気いっぱい」と3つの取組の視点「共生社会」「多様なつながり」「愛着心を育む」に基づき、取組を評価します。

人財 仲間を増やす

交流 することで気づく

情報 による動機づけ

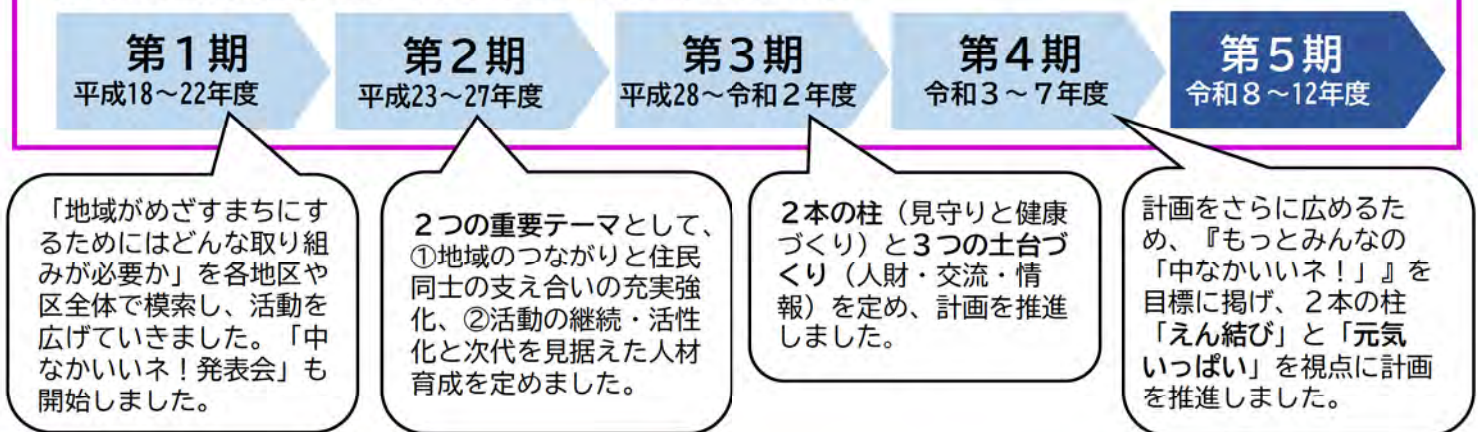
区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ

2 中なかいいネ！のあゆみ

地域の声と知恵を集めて、未来へつなぐ計画へ。

区民意識調査やグループインタビューなど、多様な視点をもとに、「第5期地域福祉保健計画 中なかいいネ！」の素案をまとめました。地域の思いを反映したこの計画が、誰もが安心して暮らせるまちづくりの力となります。

第5期計画の計画期間は、令和8年度～12年度の5年間です。



第5期計画の策定に向けた会議・調査・意見募集

令和5年度	・中なかいいネ！推進会議(5月・10月・3月) ・区民意識調査 ・第4期計画中間振り返り	推進会議では、第5期計画の方向性を定めるため、第4期計画の振り返りを行いました。
令和6年度	・中なかいいネ！推進会議(6月・3月) ・グループインタビュー(10月) ・中区の子育てワイワイトーク ・中区区民意識調査 ・中区外国人数基礎調査 ・中区子ども・子育てネットワーク推進事業アンケート調査 ・第2期横浜市中区多文化共生推進アクションプラン	区民意識調査や地域支援に関わる皆さんへのグループインタビュー、その他調査も踏まえて第5期計画骨子を作成しました。
令和7年度	・中なかいいネ！推進会議(6月・3月) ・第5期計画 素案区民意見募集(10～11月)	令和6年度に作成した骨子をもとに話し合いを進め、第5期計画の素案をまとめました。同時に、各地区で地区別計画も策定中です。



第4期中なかいいネ！推進委員名簿

令和7年10月1日現在

所属	氏名（敬称略）
駒澤大学	川上 富雄
第1 北部地区	杉野 芳之
第1 地区中部	芦原 将
関内地区	井上 圓三
埋地地区	藤平 保之
寿地区	梅田 達也
石川打越地区	織茂 圭賛
（福）横浜市中区社会福祉協議会 中区連合町内会長連絡協議会、第2 地区	松澤 秀夫
第3 地区	石井 清
第4 地区南部	小島 智子
第4 地区北部	山本 秀夫
本牧・根岸地区	上保 光正
第6 地区	守屋 孝
新本牧地区	鈴木 聖一
中区医師会	秋山 修一
中区歯科医師会	蕭 敬意
中区薬剤師会	深澤 仁
横浜商工会議所	岩橋 真人
中区障害者団体連絡会	長尾 孝治
中区ボランティア連絡会	櫻井 光雄
中区老人クラブ連合会	齊藤 章
（公財）横浜市国際交流協会	藤井 美香
中区中学校長会	亀井 孝洋
中区地域ケアプラザ	鈴木 知美
中区民生委員児童委員協議会	梁田 理恵子
中区主任児童委員連絡会	長谷川 由美
中区保健活動推進員会	青沼 久美子
中区食生活等改善推進員会	板垣 慈
中区青少年指導員協議会	辺見 伸一
中区スポーツ推進委員連絡協議会	森田 眞里

横浜市中区役所
福祉保健課 事業企画担当
〒231-0021
横浜市中区日本大通35番地
☎ 045-224-8330
FAX 045-224-8157

社会福祉法人
横浜市中区社会福祉協議会
〒231-0023
横浜市中区山下町
産業貿易センタービル4階
☎ 045-681-6664
FAX 045-641-6078